

白鷹町まちづくり複合施設

木材利用優良施設コンクール

祝

内閣総理大臣賞 受賞

木材利用推進中央協議会が主催する令和2年度木材利用優良施設コンクールにおいて、白鷹町まちづくり複合施設が最優秀賞である「内閣総理大臣賞」を受賞しました。

受賞のポイントとなったのは、伐採・製材、乾燥、施工までのすべての工程に一貫して町内企業が携わり、地域内で森林資源を持続的に循環させる仕組みづくりの構築に向けた、モデルとなるような取り組みを実践していることや、施設に入ると、町民ラウンジを中心に、図書館、中央公民館、役場庁舎がつながり、多くの町民が利用している姿が想像できるところが高く評価されました。

本コンクールでの受賞を契機に、今後さらに町内外へ広く白鷹町産材をPRすることで、本町の林業・木材産業の振興を図っていきます。





白鷹町長選挙 佐藤誠七町長が再選

佐藤町政 4 期目スタート



10月11日、当選証書を授与されました

任期満了に伴う白鷹町長選挙は、10月6日（火）に告示され、現職の佐藤誠七さん（69歳・十王）以外に立候補の届け出がなかったため、無投票で当選を果たされました。引き続き、4期目の町政を担うこととなります。

佐藤町長は、平成20年に初当選。これまでに医療費無料化の高校生（18歳）までの拡充や地区公民館のコミュニティセンター化、まちづくり複合施設の整備、白鷹中学校の開校などを実現してきました。「打てば響く町政」を掲げ、第4ステージへと進んだ佐藤町政。子育て・教育のさらなる充実と働く場所の確保、林業の再生、豪雨災害の早期復旧などを重点に置いた新たな町政のスタートが切られました。

就任の ごあいさつ



白鷹町長 佐藤 誠七

このたびの町長選挙におきまして、引き続き4期目の町政を担うことになりました。改めてその責任の重さを痛感し、身の引き締まる思いであります。

町長に就任してからの12年間、「打てば響く町政」をモットーに、町民の皆さまとともに「共創のまちづくり」に取り組んでまいりました。なかでも、最大の課題であった荒砥橋の架け替えが間もなく竣工の見込みであり、東西一体となった新たなまちづくりの契機になるものと確信しております。

4期目につきましては、まずは7月豪雨災害対策に全力で取り組むとともに、第6次白鷹町総合計画のもと、特に子育て支援や教育の充実に力を入れながら、最大の課題である人口減少対策に向け、子育て支援住宅の整備や荒砥高校の存続に向けた取り組みをはじめ、老朽化したコ

ミュニティセンターの整備や高齢者の生活支援、6次産業化のための加工施設の整備、国道287号、西回り幹線道路の整備ならびに国道348号の再整備に向けた取り組みなどを着実に進めてまいりたいと考えております。

また、これまで積極的に取り組んできた、町の木を伐って使って植える「緑の循環システム」の構築が全国的に評価され、令和2年度の木材利用優良施設コンクールにおいて、白鷹町まちづくり複合施設が内閣総理大臣賞を受賞いたしました。今後は、町産材を都市部にも活用していただく方策を検討してまいります。

本町のさらなる発展に向け町民の皆さまの声をお聞きしながら、持続可能で安心して住めるまちづくりに取り組んでまいりますので、一層のご協力をお願い申し上げます。